

十勝川の学びや 14日再開

「ととろーど」魚道映像も

施設の老朽化で改修工事が行われていた十勝川インフォメーションセンター（帯広市大通北2）が14日、再オープンする。外壁や内装の改修を終え、展示内容もリニューアル。帯広開発建設部帯広河川事務所は「これまで足を運んだことのない人たちにも利用してもらいたい」としている。

（完戸雅美）

インフォメーションセンター



同センターは木造3階建て、延べ床面積440平方メートルで、1993年に開館。水位流量観測施設（自動観測）としての機能に合わせ、河川に親しむ場として多くの市民に利用され、環境学習の場としても活用されてきたが、老朽化が進み、利用者の安全が確保できないことから、2022年1月に休館。今年、十勝川治水100年を迎えたことから、再オープンに向けた改修工事を進めていた。

展示品もリニューアル。1階の展示スペースには、河川事務所の業務や十勝川などの紹介パネルのほか、河辺にある鮎物、クマヤシカなどの動物の剥製を展示。また、幕別町内の魚道観察室「ととろーど」の様子を同センターでも見られるよう、リアルタイム配信

改修工事を終えた十勝川インフォメーションセンター

のモニターも設置した。2階は交流スペースとし、環境学習やイベント、ワークショップなど多目的な利用が可能になる。3階は展望フロアとして、双眼鏡が設置されており、十勝川のある景色を楽しむことができる。

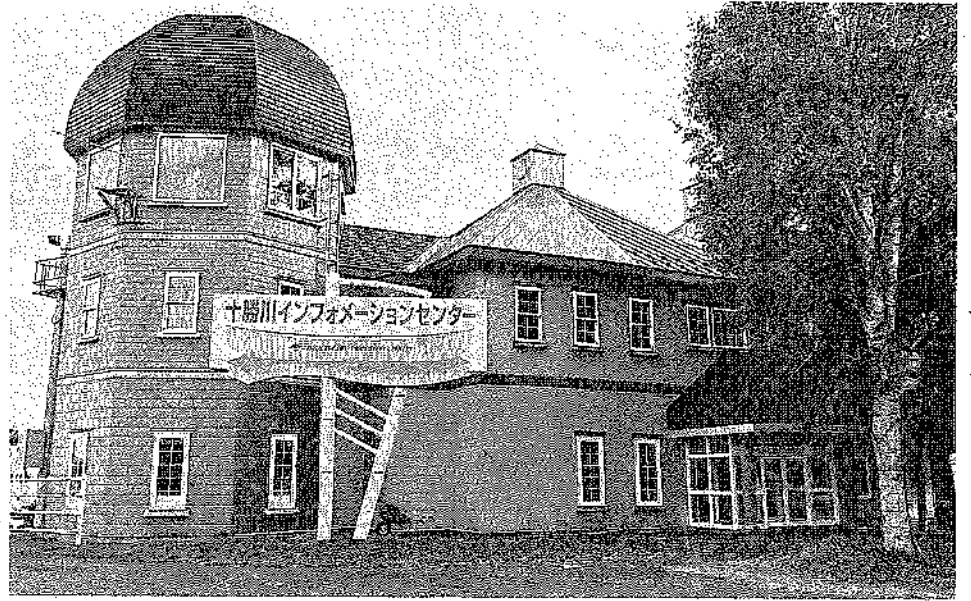
帯広河川事務所は「指定管理者のノウハウを活用し、サイクルツーリズムや観光ツアー、地域のにぎわいを創出するイベントなどにも利用してもらえよう環境を整備した」と説明。その上で「これまでは情報発信の拠点だったが、観光交流拠点や防災活動拠点としても利用してもらえたら」としている。

開館時間は午前9時～午後5時で、定休日は月・火曜。11月からは冬期間に入るため月曜のみ開館。

再オープンに合わせて14日午前10時から行う見学会への参加も受け付け中。希望者は13日正午までに参加者の名前、電話番号、メールアドレスを記入の上、件名に「十勝川インフォメーションセンター見学会参加希望」として帯広開発建設部までメール（hkd-obj-okadhinfo@gxh.go.jp）で申し込む。

十勝川インフォメーションセンター 耐震化完了 あす再オープン

14日にリニューアルオープンする十勝川インフォメーションセンター



帯広開発建設部は14日、十勝川インフォメーションセンター(帯広市大通北2)を再オープンする。今年は十勝川治水事務所が設置されて100年。展示内容をリニューアルし、住民らの交流拠点にも役立ててもらう。当日は記念式典を行う。

同センターは1993年に開館。木造3階建て、延べ約440平方メートル。老朽化で2022年1月から休館していた。

9月末に改修を終え、建物を耐震化。外装をグレーと青色に塗り直した。改修費は約8千万円。十勝川の千代田新水路(幕別町)の魚道を遡上するサケやウグ

イを同センターで画面越しに見ることができるようにした。QRコードで十勝川流域の地図を読み込んでアイコンを押すと、上流や十勝ダムの画像をスマートフォンで見られるコーナーを設けた。十勝川の治水事業や洪水被害を振り返るパネルも展示する。

住民らの交流拠点として、椅子やテーブルを用意した休憩所も設置。国が指定するナショナルサイクルルート「トカプチ400」のコースが隣接するため、空気入れなど自転車を整備できる用具もそろえた。

帯広開発の井田泰蔵部長(54)は「耐震化でより安全

な施設になった。住民らが交流を深める場になれば」と期待する。

14日午前10時から記念式典を行う。十勝を拠点に活動するバイオリニスト和光憂人さんとピアノニスト長尾崇人さんが演奏する。

(安達杏奈)

「地元観光でも利用を」

十勝川インフォメーションセンター 改修終え見学会

帯広市大通北2の十勝川インフォメーションセンターの改修工事が終わり、再オープンを記念した見学会が14日、現地で行われた。市民や関係者など約35人が参加し、十勝川の情報発信や環境教育、観光などの機

能を持つ新たな施設に触れた。同センターは1993年から水位流量観測施設の他に防災拠点や環境学習の場として利用されてきた。老朽化に伴い昨年1月に休館し、改修工事を経て十勝川



施設1階では「ととろーど」のリアルタイム映像を流している

治水100年に合わせてリニューアルした。見学会に先立ち、帯広開発建設部の久保徳彦帯広河川事務所長は「地元の観光にも役立ててほしい。十勝川流域の多くの方々に利用いただきたい」とあいさつした。

1階の展示スペースは、十勝川治水100年の歩みに関する資料や周辺の動植物の標本などが並ぶ。幕別町内の魚道観察室「ととろーど」の映像をリアルタイムで流すモニターも設置。二次元バーコードを読み込むと動物や河川の画像を見ることができ「デジタル図鑑」「河川バーチャル見学」のコーナーも設けた。3階の展望フロアには双眼鏡を置き、床に

広がる十勝の地図を見ながら窓の外の景色を楽しめる。

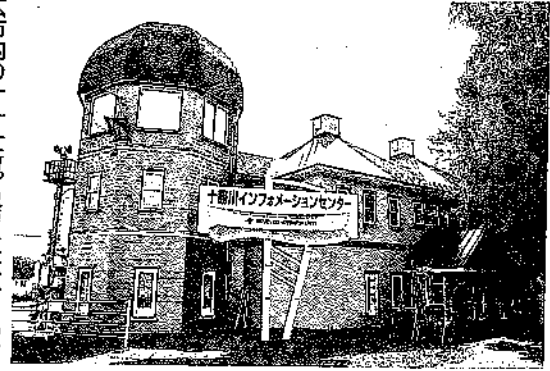
周辺にナショナルサイクルルート「トカプチ400」があることから、入り口にサイクルラックを設置。観光交流拠点・サイクルステーションとしても登録し、トイレの活用や修繕キットなどの貸し出しを行う。

(菊地青葉)

治水事業など資料展示

十勝川インフォセンター再開

帯広開建



【帯広】帯広市内の十勝川インフォメーションセンターが再オープンした。十勝川治水100年記念事業で建物を耐震化し、内外装や展示内容を

一新。14日には多くの市民が訪れ、新しい展示スペースを見学した。大通北2丁目にある施設はW造、3階、延べ440平方メートルの規模で、1

1年半ぶりに再オープンした

993年に完成。十勝川の治水事業や生態系を学ぶ資料を展示する。

老朽化により2022年1月から休館。管理する帯広開建は閉館を検討したが、ことし迎えた十勝川治水100年の節目に合わせ、再開することを決めた。宮坂建設工業が耐震化と内外装改修を施した。

十勝川の歴史を振り返るパネルのほか、尋別町内にある千代田新水路の魚道を映像で紹介。市民が自由に使える交流スペースを設けた。

帯広開建の井田泰蔵部

長は「新たな施設を拠点に、地域活性化につながる市民活動が広がってほしい」と期待する。